

開 会 挨拶

同志社大学 学長 八 田 英 二

本日はたくさんの方々に同志社大学にお見えいただきしました。厚く御礼を申し上げたいと思います。

このFDフォーラムは、大学コンソーシアム京都が中心となりまして、高等教育の質向上と京都におけるFD活動の情報発信を目的に、15年前の1995年から始まっております。当初は百数十名の参加者で始まりましたが、今年で15回目を迎え、ここ数年は大体一千名規模の参加者をお迎えするということになっております。日本のFD活動の世界で、春の年中行事としてほぼ定着したという評価をいただいておりますが、これもご参集いただいている皆様方のお陰だと考えております。

今回、同志社大学が会場校となり、このように全国から大勢の方々をお迎えできることを、たいへん光栄に存じております。ご参集に感謝を申し上げますとともに、このフォーラムの企画・運営に多大なるご協力をいただきましたFDフォーラム企画検討委員会の先生方にも厚く御礼を申し上げたいと思います。

少し本学を紹介させていただきますと、同志社は1875年に新島襄により創立されました。もとは同志社英学校をその母体としております。最初は生徒8名、教員2名で始まりまして。今年でちょうど135年です。今では12学部、14研究科、学生総数が2万7千名という規模になっております。2009年度は文部科学省が公募した国際化拠点整備事業「グローバル30」に採択され、また2010年度からグローバル・スタディーズ研究科を設置し、同志社大学はこのような国際交流や国際化にかなり力を入れております。「良心教育」を建学の精神とする私どもの教育理念の一つは「国際主義」ですが、このような国際交流や国際化は、現

在同志社大学が取り組むべき最重要課題としております。世界中から学生・研究者を受け入れ、かつ、世界各地に学生・研究者を派遣できる、魅力ある知の国際化拠点・同志社大学の形成にむけて重点的に取り組んでいるところであります。

高等教育のグローバル化のなか、国際通用性のある人物を育成し輩出するには、大学教育の充実・発展を図るよりほかはありません。その実質化のためにもFD活動は不可欠であり、焦眉の課題であります。このフォーラムにおいて示される新しい大学教育の動向やFD成果について、大いに学ばせていただき本学の教学創造に取り組ませていただきたいと考えております。

最後になりますが、今お座りいただいているこの場所は、室町幕府の跡、花の御所の真上です。この寒梅館の建物は2004年に竣工しましたが、その前に1年かけて発掘調査をさせていただきました。ちょうど地面から2m下に、足利幕府の花の御所があったということが分かっております。発掘調査で出てきたいろいろな物をこの上に展示しておりますので、後ほどご休憩の折にでも見ていただければと思います。

室町時代の洛中洛外図屏風に描かれている人々のエネルギッシュな生き方のように、今日・明日2日間のフォーラムにおいて活発なご議論を展開いただき、日本の高等教育がいつそう花咲ききっかけとなるようお祈りさせていただきますと思います。

本日はようこそお見えいただきしました。充実した2日間でありますことを祈念いたしまして、私の開会の挨拶とさせていただきます。

開 会 挨拶

第15回FDフォーラム企画検討委員会 委員長
同志社大学文学部英文学科 准教授

金 谷 益 道

皆様こんにちは。FDフォーラム企画検討委員会委員長を務めております同志社大学の金谷益道と申します。

本日は、大変お忙しい中「第15回FDフォーラム」にお越し頂き誠にありがとうございます。

主催者を代表し一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

このFDフォーラムは、京都の全大学が加盟します「大学コンソーシアム京都」が中心となり開催しておりますが、今回で15回目となります。第1回FDフォーラムは、1995年に165名の方にご参加を頂き開催されました。その後、FDフォーラムは回を重ねていき、現在では全国各地から1,000名を超える方々にご参加を頂けるような大規模なフォーラムとなりました。

この参加者数の増加が物語りますように、この十数年でFD活動は急速に広まってきました。特に2008年、大学設置基準が改正されFD実施が義務化されてからは、大学の教職員がFDに取り組む機会は増えたと思われます。しかし、大学のFD活動は一部の教職員のみ任されてしまっているという現状の報告をよく耳にします。

大学のFD活動を活性化するには個々の教員・職員による主体的な努力はもちろん不可欠ではありますが、それだけでは解決できない課題も数多く

あります。しかし、大学教員、大学職員、大学、そして学生が有機的、そして効果的につながれば、個々の教職員の努力のみでは解決できない問題も解決でき、大学全体の教育力も向上するのではないのでしょうか。そこで、我々は今回のFDフォーラムのメインテーマを「学生の学びを支える — つなぐFDの展開 — 」としました。本日開催しますシンポジウムは、このように“つなぐ”ということばをキーワードにし、今後のFD活動を皆様と一緒に考える場にしたいと考えております。

また今回のメインテーマ、「学生の学びを支える — つなぐFDの展開 — 」には、FD活動で最も重要視されるべき対象は学生である、ということを確認しようというメッセージも含まれています。昨今の学生を取り巻く環境は目まぐるしいスピードで変化していますが、決していい方向に変化しているとは言えません。このFDフォーラムにおいて、報告者や参加者の皆様がつながりを深め、学生のためによりよい教育改善の方策やそのヒントが生み出されることを願っております。

この後のシンポジウム、そして明日開催されますミニ・シンポジウム、分科会では是非、忌憚のないご意見をお出し頂けたらと思います。

簡単ではありますが、開催にあたってのご挨拶とさせていただきます。